

1. 事業の必要性・概要

家庭における温暖化対策を一層推進するためには、ドラスティックなライフスタイルの転換が必要。これまでのモノ・エネルギーの大量消費型生活ではなく、真に豊かで持続可能なライフスタイルのためには、先進技術の導入だけではなく、地域の気候特性や社会構造の変化に応じた生活スタイル転換への検討が求められている。

本事業では、伝統的技術等も活かし、少ないエネルギーでも豊かに暮らせる低炭素ライフスタイル（New Low-Carbon Life Style）を描き出すことを目指すとともに、新たなライフスタイルを展開するための評価尺度を検討し、地域に応じた真の生活の豊かさに着目した NEB (Non-energy benefits) 指標の確立を目指す。

2. 事業計画（業務内容）

●低炭素ライフスタイルの効果実証

エネルギー使用を削減させながら豊かな暮らしを目指す各種の未来型ライフスタイルを一定期間フィールドで試行・改善することにより、生活の豊かさとCO2削減効果を定量的に評価・実証する。

●住まい方・自然の力を活用した技術等の評価手法構築

上記の結果も踏まえ、快適性、健康性、知的生産性等、環境以外の価値として生活の豊かさの定量的な評価（NEB 指標）を検証し、受容性の高い低炭素な暮らし方を家庭向けに提案するための評価手法を構築する。また、これらの低炭素ライフスタイルの実現のための仕組みを検討する。

●例えば、自然や地域の気候特性を活用したパッシブ手法の効果や住まい方の工夫等による効果等を検証する。

3. 施策の効果

我が国が目指すべき社会像として、生活の質を向上させ、真の豊かさを創出する低炭素ライフスタイルを提案し、展開するための評価指標を制度へ反映させるとともに、ビジネス市場創出に繋げる。



事業目的・概要等

背景・目的

- 家庭における温暖化対策を一層推進するためには、ドラスティックなライフスタイルの転換が必要。
- 高効率機器等効果的な先進技術の導入だけでなく、地域の生活様式・気候の特性や、高齢化等の社会構造の変化に応じた転換を検討することが必要。
- このため、地域に根付いた先人の知恵や伝統技術、絆等も活かした**真に豊かな低炭素ライフスタイル (New Low-Carbon Life Style)** を創出することが必要。
- この成果から、新たなライフスタイルを展開する評価尺度を検討し、地域に応じた**真に豊かな生活**に着目した指標(**Non-energy benefits**) の確立を目指す。

事業スキーム

委託対象：民間事業者、研究機関等
実施期間：平成26年度～平成28年度



期待される効果

- **生活の質を向上させ、真の豊かさを創出する低炭素ライフスタイル**をデザイン・提案
- 成果は、**低炭素建築物の認定基準の見直し等**に活用させ、制度づくりに貢献

事業概要

- **低炭素ライフスタイルの効果実証**
未来型ライフスタイルを一定期間試行・改善し、生活の豊かさとCO2削減効果を定量的に評価・実証
- **住まい方・自然の力を活用した技術等の評価手法構築**
快適性、健康性、知的生産性等、環境以外の価値として生活の豊かさの定量的な評価を検証し、新しい暮らし方の評価手法 (NEB指標等) を構築する。

例1：自然や地域性を利用したパッシブ手法等による効果

- ・自然換気、自然採光による快適性向上やCO2削減効果
- ・緑化による放射環境の改善と自然共生
- ・CLT (直交集成板) の活用等地域資源の利用
- ・地域特性に応じた空調のチューニング
- ・伝統的町屋における「古人の知恵」の再評価

例2：住まい方の工夫等による効果

- ・生活空間のシェアによる生活の豊かさとCO2削減効果
- ・個々のライフスタイルに合わせた設備の運用最適化

例3：集合世帯における対策効果

- ・賃貸住宅の環境性能向上・入居者のCO2排出量評価
- ・福祉施設における温暖化対策と生活の質 (健康性) 等の評価



- 我が国が目指すべき社会像 (新・低炭素ライフスタイル) の確立、その進捗を測る指標を制度へ反映
- 家庭・住む人の思いを反映した低炭素ライフスタイルを提案
- 生活の豊さを示す指標の確立により、低炭素ライフスタイルの広がり・ビジネス市場創出